

実践③ 霧島市立横川中学校

1 はじめに

霧島市横川町は、北緯31度50分東経130度44分に位置し、南北には8.5km、東西には12.8kmあり、町内全域が横川中学校の校区である。町内にはJR九州肥薩線、九州高速自動車道などが通り、牧園、湧水、加治木、伊佐、川薩への分岐点にあたる。昔から交通の要衝であり、かつて山ヶ野地区では金が産出され、非常に繁栄した時期もある。

現在は、交通の要衝であることから、先端技術を生かした企業も進出している。また、運動公園を兼ねた丸岡公園は桜の名所であり、多くの観光客が訪れている。あわせて、九州一古い木造駅舎の大隅横川駅も平成18年10月に国の登録有形文化財に登録され、さまざまなイベント開催で横川の観光名所の拠点として、市の観光経済面に貢献している。

本校の生徒は、図書部をはじめ生徒会、部活動等に積極的に取り組んでいる。大隅横川駅のイベントにも参加し地域と密着した活動をしている。

学校図書館には学校司書が常駐し、蔵書数は9,186冊である。

2 生徒の読書への関心を高める取組

(1) 図書部読書会の開催

図書部を中心に、1～2か月に1回、読書会を開催している。「自分のおすすめの本」や「テーマで選ぶ本」について語り合うことで、より深い読書ができる。発表する人だけが参加するのではなく、見学だけでもできるようにしている。人の発表を聞くだけでも心に残って本を手にとってくれるきっかけになると思われる。



図書部読書会

(2) ミニビブリオバトルの開催（ビブリオバトル教室）

ゲーム感覚でプレゼン能力を育て、楽しみながら本に、そして本を通して人に関心をもつことを目指す。ミニビブリオバトルを開催する前にビブリオバトル普及委員会の方を講師に招いて、ビブリオバトル教室を全学年で行っている。今年度のビブリオバトル教室は、小学校ともオンラインでつなぎ、交流することができた。



ビブリオバトル教室

(3) 毎月23日は読書の日

毎月23日を読書の日にして全校で取り組んでいる。生徒は読んだ本の感想を生活の記録に書き、それを家庭で読んでもらい、感想を一言添えてもらっている。その中から、図書館だよりにはいくつか載せて紹介をしている。

本をきっかけにして家族でコミュニケーションを深め、表現力や思考力、共感する力を育てて欲しいと願いながら取り組んでいる。

3 地域の特性を生かした取組

霧島市と岐阜県海津市は、姉妹都市盟約を締結している。海津市にある治水神社の松ぼっくりの種子を採取し育てた「千本松原2世松」が贈呈され、その松が学校の正門近くに植樹された。学校の「命の教育の日」に霧島市と薩摩義士とのつながりを図書部が放送し、本の紹介をしている。



正門近くの千本松原2世松

4 一冊でも多くの本を生徒に

「生徒と職員，地域も巻き込んで，身近に感じることができる図書館にしたい」という思いから，学校図書館ホームページ「横川中学校図書館ポータルライブラリー」を作成した。生徒はタブレット端末からいつでも図書館の情報を見ることができ，学校のホームページから保護者や地域の方も見る事ができる。

「横川中学校図書館ポータルライブラリー」は，蔵書を検索して予約し借りることもできる。地域の方には学校まで本を取りに来てもらい，保護者には生徒を通して本を借りてもらう。霧島市立中央図書館が遠い横川町でも，このシステムによって，一冊でも多くの本を生徒や地域の方に届けることができる。



学校図書館の
ホームページ

5 ライブラリーコンサート

毎年12月に図書館でライブラリーコンサートを開催している。このコンサートのチラシを地域の横川図書室や横川総合支所に掲示してもらっている。生徒だけではなく，保護者や地域の方も図書館で本と音楽を楽しみながら，地域で交流することもできている。



ライブラリーコンサート

6 宝本エピソード作品の募集

鹿児島県立図書館の「宝本エピソード」募集に全校で取り組んでいる。夏休みに，家族と本のエピソードや本に影響された思い出などを書いて提出してもらった。この取組を通して家族との絆を深めてもらえたらと思う。

7 今後の課題

学校では，毎年度初めに図書館オリエンテーションで，学校図書館ポータルライブラリーから蔵書検索と予約ができることを説明できるが，地域の方々の認知度は低いいため，もっと知ってもらえるように広報を考える必要がある。地域の横川図書室や大隅横川駅のイベントに学校図書館も参加して，地域ともっと連携した読書活動ができるように計画したい。